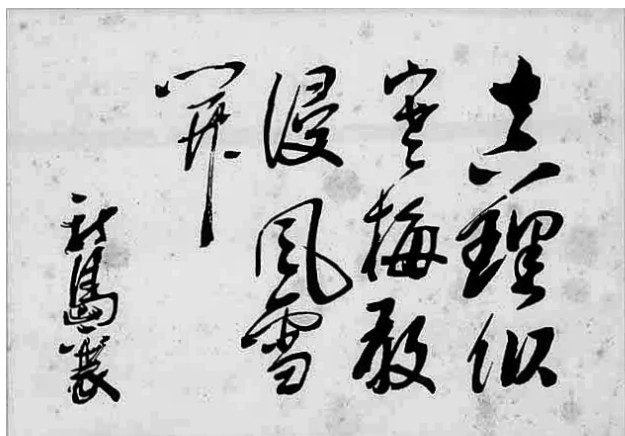


真理似寒梅

敢侵風雪開



新島の言葉を一つ選べと言われたら、私にとつては一も二もなくこれである。拙文の掲載時期からすればかなりのフライイングであることは百も承知の上で、やはりこれである。

女子中高で育った私。一番なじみがあるのは「庭上一寒梅」で始まる五言絶句を歌詞としたあのメロデー。そして、「花の歌」の四番。「寒梅の如く凛々しく強く！これぞ私の生きる道！」と心燃えた記憶が蘇る。卒業式で答辞を読む機会を与えられ、その中でもこの詩を引用したほどの心酔ぶり。若くて真っ直ぐだったのである。いや、今だって気持ちはそのなに変わっていない……と、自分では思っている。

私のイメージではこれは白梅なのだが、どうなのだろう。押し付けがましきのない清潔な香気。薄青く澄んだ冬空に映える白い花びら、黒い枝。そのコントラストさえ清々しい。

要領の良さ、結果の華々しさが求められる世の中で、「寒梅」を志す姿勢とはなんと不器用なことか。ちつとも流行らない。でもそこへ、「だからいいんです！」と、十代の頃の私が舌を出す。

聞けば再来年の大河ドラマは新島八重が主人公、その名も「八重の桜」だとか。どうせなら「八重の梅」だよなあ、でも「寒梅」は八重咲きのイメージじゃないなあ、などと思いついて悩んでいる。余計なお世話である。